

## ネタニヤフ首相のアメリカ訪問

ものすごい一週間でしたね。みなさん、トランプ大統領の記者会見をご覧になったか分かりませんが、気分がすっきりしましたよね。そして、勇気づけられました。さらにもっと勇気づけられたのは、イスラエルのベニヤミン・ネタニヤフ首相との合同記者会見です。あれには、ものすごく勇気づけられました。それから、さらに勇気づけられたのは、昨夜のファーストレディーです。フロリダの集会で、彼女の夫を紹介する前に、「主の祈り」を朗読しました。あれは本当に気持ちよく、勇気づけられるものでした。それから、ある種の“聖別された皮肉”が込められていたと言ってもいいかもしれません。リベラル派のメディアが、これによって、どれほど混乱をきたしたか、私は観ていて嬉しくなりました。地球上のエリートたちを、どれほど震撼させたか。彼らの求めていたもの、すなわち“新世界秩序”、“世界統一政府”と、正反対に向かっているのです。彼らは現在、この大統領にてこずっていると言えるでしょう。特に現在の、我々とイスラエルとの新しい関係です。前大統領が、イスラエルの顔に泥を塗り続けた、長い長い8年間の後、ついに得たのです。ホワイトハウスが、イスラエル首相とサラ夫人を迎え入れる様子を見て、私は非常に祝福され、また感動しました。私から見れば、あれはオバマが行った事とは正反対でした。オバマ時代に、ネタニヤフ首相がホワイトハウスを訪問した際、彼らは横の入り口から通され、面会までに何時間も待たされました。エルサレムポストが、これに関して記載しています。

——イスラエルのネタニヤフ首相が、水曜日に迎え入れられたような歓迎は、長い間受けていなかった。例えば 2010 年、バラク・オバマとの面会の際、ネタニヤフは横の入り口から通され、記者会見もなく、写真撮影もなし、最終報告もなかった。まるで、訪問自体が無かったかのようだった。2009 年、オバマが両足を机に乗せて、ネタニヤフと電話している写真を公開。イスラエルの指導者に対して、あからさまに侮辱した。——

中東の文化では、これがどれほどの意味を持つのか、みなさんは全くご存知ないでしょうが、私が子どもの時、家に来ていたお客様の前で、私が両足を机の上に乗せていたら、母が絶叫しました。「足を下しなさい!!!」と。なので、私は「ごめんなさい!!!」と言いました。その時に母が教えてくれたのは、中東では、足の裏と言うのは体の中で一番汚い部分で、それを人の顔の前に突き出すという事は、究極的な侮辱を示す態度であり、人の顔に唾を吐くのと同じ行為なのです。

The Jerusalem Post は続けます。

——水曜日は、誰も足の裏を見せず、握手、ハグ、背中を軽くたたき、頬にキスの嵐で、トランプ大統領と大統領夫人は、ネタニヤフ夫妻を迎えた。——

この事に、私は神を讃えます。ハレルヤ!

これは、良好なスタートです。そしてこれは、まさにこの後続く、記者会見で飛び出す驚愕のニュースの始まりでした。冒頭陳述の後、トランプ大統領とネタニヤフ首相は、記者たちの質問に答えました。その

中で、トランプが一番に、クリスチャンブロードキャスティング ネットワークの David Brody を指名したことから始まりました。リベラル派のメディアの混乱っぷりを見てください。

ところで、ネタニヤフが来る前の、記者会見はご覧になりましたか？その時、トランプが CNN に向かって言ったのが、「私はもう、あなた方を“偽ニュース”とは呼ばないよ。あなた達は、“超偽ニュース”だ。」何か、聖別されたものを感じますよね？使徒パウロではないですが、「私は、誰も恐れず、彼らをありのままに呼ぶ。」ですね。

さて、当然リベラル派のメディアは、発狂しました。最初の質問が、これがまた面白いのです。Fox ニュースの株が上がりますが、オバマ前大統領の、第一回記者会見での最初の質問と対比させていたのです。それは、こんな質問でした。

「大統領になった感想はいかがですか？」

「“カムバックキッド”（クリントンのあだ名）のような気分ですか？」

うそでしょ！？本気ですか！？と思いました。

Brody 記者は、優しい球は投げず、その代り、核協議について、それからフリン国家安全保障担当補佐官の辞任について質問しました。この瞬間に、これは面白い記者会見になると思いましたが、まさに思った通りでした。トランプは、おおらかな態度で、ネタニヤフに向かって言いました。

「少しの間、入植活動を控えてくれると良いなと思うのだけど？」

「他の方法を見つけましょう。」

「私は、合意が成立するようにしたいんだ。私は、合意が成立すると思っている。」

「ビビは（ネタニヤフの愛称）と私は、長い付き合いで、聡明な男だ。実に交渉に長けている。私たちは、合意を成立させることが出来ると思う。」

——ここ、聞いてください。

「ここに居るみなさんが想像し、理解できるものよりも、**もっと大きく、もっと良い合意が。**」

——これを覚えておいてください。

「可能性はあります。だから、私たちが行うことを見ていてください。」

ネタニヤフの反応は、

「大変だろう」「やってみよう」

明らかに、不意を突かれていました。それに対して、トランプの返事は、

「あまり楽観的ではないようだが、交渉上手だ。」

ネタニヤフは、トランプのおおらかな冗談に合わせて、はにかんで言いました。

「“交渉の美”だね。」

そして、両指導者が“二国解決策”と、アメリカ大使館のエルサレムへの移動について問われた時、事態はさらに面白くなります。トランプの解答は、

「私は、“二国”解決策と、“一国”を見ており、両者が気に入るものを、私は求める。」

私はネタニヤフの反応を見ていたのですが、彼の眉毛がメガネの上に乗って、「わお！この人のこと大好きだ！！」とでも言いたげに、笑っていました。トランプは言いました。

「私は、どちらでも構わない。しばらくは“二国”の方が簡単かと思っていたが、正直言えば、イスラエルとパレスチナが幸せなら、私はどちらでも彼らの好む方で満足だ。」

「大使館のエルサレムへの移動に関しては、私も、それを実現させたい。それに関して強く強く願っている。それに関して、慎重に、慎重に当たっている。信じてほしい。その上で、どうなるか見守ってほしい。いいかな？」

そして、ネタニヤフは言いました。

「昨日読んだ記事で、アメリカ高官が『“二国解決策”について、アメリカ5人に聞いてみると、8つの異なる答えが返ってくる。』と言っていたが、大統領、もし5人のイスラエル人にこれを聞いてみると、12の異なる答えが返ってきますよ。」

「ただ、解決策の“名前”ではなく、私はその中身について、ずっと何年も伝えてきたが、世の中は名前に固執し続けたのです。その中身とはこれです。」

みなさん、よく聞いてください。

「数年前に、私は平和のための前提条件を2つ提示し、それは今も変わっていません。第一に、パレスチナは、ユダヤ人国家を認めなければならない。」

なに！？みなさん、お気づきですか？中東に平和がないのは、“自称パレスチナ人”私の民が、イスラエル国家の存在を否定しているからです。何度も言いますが、彼らはイスラエルとの平和も、イスラエルとの平和も求めておらず、彼らが求めているのはイスラエルの破滅です。彼らは、以前にもこれを提示されているのに、受け入れなかったのです。だから、ネタニヤフは言うのです、

「何も変わっていない」

「彼らは、ユダヤ人国家を認識しなければならない。彼らは、学校の中で、モスクの中で、教科書の中で、イスラエルの破滅を叫び続けている。皆さんも、読めばわかります。」

「彼らは、さらに我々と祖国の地との、歴史的なつながりも否定しますが、みなさん自問してください。『なぜ、ユダヤ人は“ユダヤ人”と呼ばれるのか？』」

私はネタニヤフのこういう所が好きです。彼は続けます。

「中国人は、“中国人”と呼ばれます。なぜかって？彼らが中国から来たからですよ。」

中には、かみ砕いて教えてあげないといけない人がいて、だから、彼はそれをしているのです。

「日本人は“日本人”と呼ばれます。それは、日本から来ているから。」

「ユダヤ人が“ユダヤ人”と呼ばれるのは、ユダヤから来ているからですよ！」

分かりますか！？

「ここは、我々の祖国なのです。ユダヤ人は、ユダヤに住む、植民地主義者ではない。」

すると、この次に私がとても驚いたのですが、トランプが、先の“和平協議”に関してこう発言しました。

「これは、実際はもっと大きな協議があって、もっと多くの国々に関わる広範囲に渡るものだ。」

これって、どこかダニエル 9:27 のようにも聞こえませんか？

“彼は、一週間の間、多くの者と固い契約を結び——” (ダニエル 9:27)

トランプは、ネタニヤフの方を向いて言いました。

「そういうとは、思っていなかったが、」

両方ともが、不意を突かれたようです。トランプは続けて、

「しかし今、それをおっしゃった。そして私は、それは素晴らしい事だと思う。」

私はこんな記者会見は、見たことがなかったし、これからも、このような記者会見は二度と見れないと思います。そしてご想像の通り、この前代未聞の記者会見に、メディアは右往左往しています。

木曜の Haaretz 紙の見出しは、

「トランプ、二国解決策の承認を謝絶。ネタニヤフに入植中断を呼び掛ける」

こちらの Times of Israel の記事は、メディアの狼狽がうかがえます。彼らはもう、どうしていいのか分からないのです。見出しは、

「ネタニヤフの裏切り。トランプの“二国”、“一国”が、イスラエルのメディアを苛立たせる」

ヘブル紙、木曜朝刊の見出しは、

「トランプ—ネタニヤフ劇場」

総理大臣の、アメリカ大統領との面会翌日、「先月、“ドナルド”が就任して以来初めて」

これもまた、侮辱した言い方ですね。皆さん理解しておくべきは、イスラエルのメディアは、トランプを嫌っているという事です。さらには、悲しい事に、ネタニヤフの事も気に入らないのです。

ヘブル紙記事からです。

——右派の Hiyatom 紙から、左派の Haaretz 紙まで、“二国解決策”に関する、最高司令官の意見は、“訴訟一覧表のトップ事項”である。この時期、ワシントンもエルサレムも冷え切っているだろうが、イスラエルの指揮者たちは、ワシントン DC の空気を、フロリダかと感じるほど、熱く湧き立たせている。——

さらに、Times of Israel 紙が報じているのは、

トランプがネタニヤフに、「入植を控えるように告げた。」

——両者は、入植建設問題について話し合い、ホワイトハウスの報告によると、「引き続き、これについて話し合い、“平和と安全” (第一テサロニケ 5:3 です) の推進に努めていく。」トランプは、二国解決策に対して、全面的に尽力する姿勢を取らず、アメリカの二十年に渡る外交政策を終わらせた。——

Carokine Glick が “二国解決策切り捨て” のように見える件について、興味深いことを書いています。

——トランプとネタニヤフの合同記者会見で飛び出した、最も特記すべき発展は、二国解決策の施行を拒否したことだろう。これは必要な行動だった。アメリカとイスラエルが、味方国として歩むための唯一の方法は、両方の指導者が、政策立案の為の二国解決策の枠組みを捨てる事だ。二国解決策の要因は、彼らの方策と、諸国の利益の為に、パレスチナ解放機構に囚われ、きわめて重要な戦略をくじく、短絡的な敗北主義的行動である。——

これについて、みなさんも一緒に考えてみてください。7年間の大患難の間は、世界統一政府、世界統一宗教、世界統一経済となります。という事は、一国解決策が、その元となるとは考えられませんか？言い換えれば、ぴったり当てはまるという事です。

「なら、エルサレムはどうなる？」「エルサレムは、分断されないのか？」

確実に分断されます。それでも、これこそが考えられる最善の方向で、また向かうべき方向であると言えば、説明がつくでしょう。だからこそ、私はトランプが大統領になった事で、聖書預言が成就しつつあると思うのです。これまでよりも、かなり早いスピードで、です。

金曜日、Arutz Sheba が、Fox ニュースの記者 Sean Hannity のネタニヤフ首相へのインタビューを報道しました。その中で、彼がとても面白いことを発言しています。トランプとの面会に関して、ネタニヤフはこう言いました。

——あれは、歴史的な面会だったと思います——

私はこれに、“預言的面会”と付け加えます。

——あれは、思いと心の融合で、大統領が言ったように、私も新しい日の、さらに強化された同盟を得たと思います。恐らく、“新しい時代”でしょう。——

わお！実際、私はこのインタビューを録画して何度か見ましたが、Fox ニュースの見出しに、驚いたのです。

——ネタニヤフ：「アメリカとイスラエルは、イランの脅威に対決するという壮大な使命がある。」——  
どうしてこれに驚いたかという、ネタニヤフが言った言葉を聞いてください。

——「協議に調印されて以来、イランはますます攻撃的になり、さらに死者を出し、さらに多くのテロ集団に、さらに多くの資金、膨大な金額の資金を提供している。それは、アメリカにとって危険であり、イスラエルにとっても危険であり、アラブ諸国にとっても危険である。今は、誰もがそれを理解していて、そして現在、アメリカ大統領もこの共通の脅威について理解しており、私たちは、現在それについて話し合っている。」——

それから、ネタニヤフは、このイラン協議から飛び出した良い点について語りました。すなわち、イスラエルが数国のアラブ諸国と結んだ新しい同盟関係です。エジプト、ヨルダン、特にサウジアラビアです。重要なのはこれです。彼が言った国は、どれもが、エゼキエル38章の預言のリストに出てこない国々です。ロシアとイランがトルコや、同盟国と一緒に、イスラエルに対して核攻撃を仕掛けるという預言です。そして、13節に出てくる、“シェバやデダン”は、現在のサウジアラビアの古代名で、彼らがする事と言えば、タルシュシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちと抗議するだけです。今回突如

に、これに対して説明がつくようになりました。

私がこれを準備し、掘り下げている時に、主が私に語られたのは、私の心にも、ずっと重荷としてあった事です。先週、たくさんの YouTube 視聴者の方々が、それぞれ感じておられる恐れについて伝えて来られました。真の恐怖です。それから、中には、頭がおかしくなりそうだと、祈りの要請もあったほどです。でもこれらは、もっともな事なのです。私たちは、実に危険な状況にいると思います。国家としてはもちろんの事、世界がまさに爆発しようとしています。現在、各地で起こっている動きは、ジョージ・ソロスと言う、とんでもない男によって、資金提供されているのです。

「名指しですか?!」

そうです。このジョージ・ソロスという男が、資金提供して人を雇って、抗議デモを行わせているのです。この国の分断と、衝突を生み出す為にです。私たちは、実に危険な岐路に立っているのです。私は本当にそう思います。実際、私は昨日、神がトランプの安全を守られるようにと祈りました。何故かと言えば、彼が問題の核心であるなら、またそうである事は、間違いないでしょうが、彼らは、暗殺しようとするでしょう。彼らが、それを予告したわけではありませんが。彼が邪魔なのです。ヒラリー・クリントンが大統領になれなかった事に、彼らはまだ茫然としていると思います。彼らの計画と、すっかりひっくり返してしまいましたから。後退させてしまったのですから。

皆さんに、励ましの言葉をお伝えします。主が、私に言ってくださった、励ましをシェアします。

他にもなく、現在私たちが木曜バイブルスタディーで学んでいる、旧約聖書の第二歴代誌からです。先週木曜日は、23、24 章を学びました。それが実に面白く、ワクワクする学びで、ヨアシュと言う良い王が、どのようにして、もっと言えば、何時、明らかにされたかについてでした。

よく聞いてください。まず背景について、少しお話しします。

歴代誌の筆者は、アタルヤと言う、非常に悪い女について記述しています。驚くには値せず、この女は、悪い王アハブとイゼベルの娘です。この女は、非常に悪で、事実、自分が権力を維持するために、自分の孫たちを殺しました。それは、アハズとイゼベルの教科書通りです。そこへ、エホシエバと言う正しい女が、ヨアシュと言う約 1 歳の男の赤ん坊を連れて行き、6 年間宮に隠したと書かれています。6 年です。そして、彼女がそれを行った理由は、ヨアシュは、ユダの王の息子で、メシアが出ると言われていたダビデ王の、唯一残された子孫だったからです。言い換えると、何らかの形で、アタルヤがヨアシュを殺していたら、神のダビデとの約束は破られていたのです。それは、起こり得ない事です。

ちなみに、神の民、ユダヤ人が始めから迫害されてきた理由は、この為です。サタンは、メシアの初臨を阻止しようとしたのです。そして、それを失敗した時、達成できなかった為、彼は今、再臨を阻止しようとしているのです。サタンは、私たちよりもずっと聖書を良く知っています。それが、女の子孫である事も知っているのです。女の子孫が、かかとで彼の頭を踏み砕くのです (創世記 3:15)。これが、「最初の福音」と呼ばれるもので、世の救い主が、この血筋から出るという預言です。この血筋からです。だから、サタンはカインに憑りつき、アベルを殺させたのです。サタンは、アベルの子孫から、救世主が生まれると思ったのです。でも、救世主はアベルからでなく、セスから出ました。だからサタンは、パロに憑りつき、全てのヘブル人の男の子を、ナイル川で死なせたのです。唯一守られたのが、モーセです。これが、

贖い主としての、イエス・キリストの型となりました。同じ悪霊に着かれたのが、ハマンド、全てのヘブル人が殺されるようにとの、覆すことの出来ない、王の勅令を出しました。それも、エステルによって救われました。新約聖書でも、同じことが起こりました。ヘロデが悪魔に取りつかれ、2歳以下の全ての男の子を殺しました。この女の子孫を殺す為に、全滅させようとしたのです。これは、処女懐胎の預言です。

そしてサタンは、メシアを絶ちたいと望み、このアタルヤに憑りついて、王座の後継者全員を殺そうとしました。だから、この正しい女が、彼を隠し、守ったのです。そして何が言いたいかと言えば、それが6年続いたのです。イスラエルから見れば、彼女が成功しているように見えました。そして、彼女による6年間の悪の支配の後、悪が敗北したのです。神のみことばが、成就されないとされた時、

「しかし、神が」

しかし、神が最後の決定権を握っておられます。すなわち、ダビデの子孫が、6年に渡る悪の支配の後。我々も、現在そこに居るのです。悪が、おとがめなしに成功しているように見えます。私たちにとっての千年は、神にとっては1日のようだと言います(第二ペテロ3:8)。この長かった8年間、私たちは悪が成功するのを見てきました。同性婚、イラン核協議、他にいくらでも出てくるでしょう。しかし神が。しかし神が、この子孫を6年間待ち、そして7年目に、実際は7年目の7日目に、祭司エホヤダが、ダビデの王の子孫として、ヨアシュを明らかにしました。それが7年目です。

そこで、励ましは、私たちのヨアシュよりも勝る方“ダビデの子”も、明らかにされるのです。6年に渡る、言葉に尽くせないほどの悪の後、ヨアシュに、王として油注がれたように、同じように、言葉に尽くせないほどの悪が栄えた、長い6千年の後、私たちの王の王であるイエスもまた、油注がれ、支配するのです。

今日、ここで葛藤している人は、詩編73編を読むと良いでしょう。詩編の著者は、その「足がすべりそうだった」と言います。悪が、お咎めもなく、成功しているように見えたと言います。もう少して、頭がおかしくなりそうだった、頭が発狂し、信仰を失いそうだったと。主の宮に入り、彼らの終わりを見るまでは。

「ああ、そういう事なのか！」

私は、何度も言っていますが、なぜ、私がこう言い続けるか分かりますか？私は知っているからです。いつか、全てのひざは、ひざまずき、全ての口が、「イエス・キリストが主である。」と告白することを(ピリピ2:10)。それは起こります。それが、私には待ちきれないのです。私は、最前列で見させてくださいと、主をお願いしてあります。彼らがひざまずき、イエス・キリストが主であると、告白する所を、見てみたい人が何人かいるのです。それがあから、私は言い続けるのです。その日がもうすぐやって来る事が分かっているから。

もし、ここに居る方の中で、もしくはこれをオンラインで観ている人の中で、恐れおののいている人が居るなら、このような時代に生きるのは、実に恐ろしい事です。でも、2つの事によって、皆さんを励ましたい。

1つ目に、もしあなたが非常な恐れに満たされているなら、それは、あなたが主を知らない証拠かも知れない。だから、これらがあなたにとっては、ワクワクする事でないのかも知れない。私や他の狂ったクリ

スチャン達は、この事にとってもワクワクしているのです。もしくは、あなたがクリスチャンで、それでも恐れがあるなら、元気を出してください。“その日”は近づいているのです。もうすぐです。長くはありません。いわゆる“アタルヤ”は、いつまでも悪を続けることは出来ません。王が来るのです。王が来ます。使徒パウロが、テサロニケの教会に言いました。

“このことばをもって互いに慰め合いなさい”（第一テサロニケ 4:18）

つまり、教会の携挙のことです。

終わりに、もし、あなたがこれまで一度も、救われるために、主の御名を呼び求めた事がないなら、どうか今日、呼び求めてください。先延ばしにしないで。後回しにしないでください。どうすればいいのか？それはとても簡単です。福音は、子供にでも分かるくらい簡単です。また、私は誰の知性も侮辱するつもりはありませんが、これは「救いのABC」と言って、とても簡単なものです。

### **A=Admit（認める）**

自分が罪人であることを認める。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受ける事ができず”（ローマ 3:23）

だから、救い主が必要なのだと認めます。

### **B=Believe（信じる）**

次は、イエス・キリストが主であり、主が十字架にかかり、葬られ、3日目に死からよみがえった事を心で信じるのです。

イエスが、あなたの罪の代価を全額贖い、そして死からよみがえったと心で信じる。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ 10:9）

### **C=Call（呼び求める）**

主の御名を呼ぶ（Call）のです。ローマにはこうあります。

“主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。”（ローマ 10:13）

どうか今日、呼び求められますように。

祈りましょう。



天のお父様。ありがとうございます。聖書預言という、確かな御言葉をありがとうございます。それによって私たちは、事が起こる前に何が起こるかを知り、それが起こった時に、私たちはあなたを信頼する事ができるのです。そして、私たちの贖いが近づいた事を知り、体をまっすぐにして、頭を上げます。主よ。ここにいる中で、もしくはこれをオンラインで観ている人の中に、これまでに、一度もあなたの御名を呼び求めた事の無い人がいるなら、今日が、彼らの救いの日になりますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい